

前期

文系

2021年度入学試験学力検査問題

地理歴史・数学

〔人文社会学部，法学部，経済経営学部：経済経営学科 一般区分，  
都市環境学部：都市政策科学科 文系区分〕 90分

答案用紙

- ・日本史 2枚
- ・世界史 2枚
- ・地理 3枚
- ・数学 2枚

注意

1. 監督員の合図があるまで，問題の内容を見てはいけません。
2. 数学は，筆記用具のほか定規，コンパスの使用を認めます。  
ただし，分度器の使用は認めません。
3. 受験番号及び氏名は，答案用紙の所定欄に必ず記入してください。

(例) 受験番号 1234567X の場合 →

	1	2	3
4	5	6	7 X

4. 解答には黒鉛筆またはシャープペンシルを使用し，必ず配付された答案用紙に記入してください。なお，世界史，数学は裏面にも解答欄があるので注意してください。  
答案用紙には，解答に関係のないことを記入してはいけません。
5. 字数指定の設問で解答欄にマス目が用意されている場合，アルファベット及び数字は，1マスに2字記入しても構いません。
6. 問題は次に示したページにあります。
  - ・日本史 1ページ～8ページ
  - ・世界史 9ページ～16ページ
  - ・地理 17ページ～27ページ
  - ・数学 28ページ～29ページ
7. 試験中に不鮮明な印刷等に気付いた時は，手をあげて監督員に申し出てください。
8. 答案用紙を切り取ったり，持ち帰ったりしてはいけません。
9. 問題冊子の余白は利用可能ですが，どのページも切り離してはいけません。
10. 問題冊子は，持ち帰ってください。また，試験終了時刻まで退室できません。

# 世界史

1 次の文章を読んで、以下の問い(1～4)に答えなさい。

紀元前 12 世紀に東地中海一帯は混乱の時代を迎え、諸国家が衰退・滅亡する一方で、新しい勢力が伸張した。この混乱の一因と考えられるのが「海の民」と呼ばれる人々の移動である。この集団は、ギリシア・エーゲ海方面からアナトリア半島に向かい、同半島で勢力を誇った  王国を滅ぼし、地中海東岸のシリア・パレスチナを経て、エジプトにまで到達したとされる。

ギリシア・エーゲ海地域では、前 2000 年ごろに北方より移住したギリシア人が前 16 世紀ごろからミケーネ文明を築き上げ、前 15 世紀にはエーゲ海南方の  島にまで勢力を拡大していた。ミケーネ文明の諸王国では、王が村落に貢納を課していたことが粘土板文書から明らかになっている。しかし、前 1200 年ごろにミケーネ文明の諸王国は滅亡する。その衰退の一因には「海の民」の侵入があるとされている。その後、およそ 400 年にわたる暗黒時代を経て、前 8 世紀に入るとギリシアではポリスが成立し、やがて周辺地域に植民市も作られた。

「海の民」の侵入を受けたシリア・パレスチナ地域では、 ・エジプトが力を失い、 語系諸民族の活動が活発になった。そのなかのフェニキア人はシドンや に代表される海港都市国家を中心に、海上交易活動に従事し地中海に広く進出した。前 9 世紀、 は北アフリカに植民市カルタゴを建設した。カルタゴは、やがてローマと対立して 3 回にわたるポエニ戦争の末に滅亡した。第一次ポエニ戦争では、主たる戦場となった  島がローマの支配下に入り、属州となった。

問 1 空欄 a～e に適切な語句を入れなさい。

問 2 下線部(1)では、前 14 世紀にアマルナ改革と呼ばれる宗教改革が行われた。その改革の概要を、主導した人物の名称と動機を含めつつ、110 字以内で説明しなさい。

問 3 下線部(2)について、記録に用いられた文字の名称と、それがギリシア語を表していることを明らかにした解読者の名を記しなさい。

問 4 下線部(3)の成立とその都市景観について、以下の 3 つの語句をすべて用いて、100 字以内で説明しなさい。使用した語句には下線を引くこと。

〔語句〕 シノイクスモス    アクロポリス    アゴラ

2 次の文章を読んで、以下の問い(1～4)に答えなさい。

イスラーム教を奉じる  朝による広域帝国の建設は、ユーラシア規模の人の流れを引き起こし、住民の言語と文化に大きな変化をもたらした。先行するウマイヤ朝はシリアに中心拠点を置いていたが、 朝はイラク平原に円形都市  を建設して首都とした。最盛期には100万人近くの人口を抱える大都市に発展し、イスラーム文化が花開いた。さらに、アラブ人だけの宗教だったイスラーム教は中央アジアなど各地に伝播していった。

イスラーム世界の拡大に大きく貢献した  朝も、9世紀半ばごろから衰えはじめ、地方政権が自立していった。カスピ海沿岸地方からおこったブワイフ朝の君主は946年に  を攻略した。北アフリカでは  朝が969年にエジプトを征服して首都カイロを造営した。両王朝ともにイスラーム教の一派である  派を奉じたが、後者は  朝の権威を認めず、自ら指導者の称号である  を名乗った。10世紀後半には、イベリア半島を支配する後ウマイヤ朝と合わせて3つの  政権が並び立った。

中央アジアでは、イラン系イスラーム国家のサーマーン朝の支配のもと、 人のイスラーム教への改宗が進んだ。やがて  人の西方への移動が進み、トゥグリル＝ベク率いる  朝の軍隊は1055年、ブワイフ朝を破って  に入城した。この王朝は  派の政権であったが、ブワイフ朝の土地政策を引き継いだ。これ以降、軍人たちが活躍する時代が続くことになる。

問 1 空欄 a～h に適切な語句を入れなさい。

問 2 下線部(1)に関連して、イスラーム文化が他文化から導入した学問や概念、およびその影響を、具体例をあげながら、120 字以内で説明しなさい。

問 3 下線部(2)に関連して、ブワイフ朝の君主が任ぜられた役職と権限について記しなさい。

問 4 下線部(3)について、この土地政策の呼称を記し、内容を 50 字以内で説明しなさい。

3 次の文章を読んで、以下の問い(1～5)に答えなさい。

近代国家を基準にすると、神聖ローマ帝国は国家としてとらえどころがなく映る。かつてヴォルテールは、「神聖でもなければ、ローマ的でもなく、そもそも帝国でもない<sup>(1)</sup>」と評した。この表現は、細かな点で反論はあるものの、そのとらえどころのなさを見事に言い当てている。帝国はすでに15世紀後半には「ドイツ国民の神聖ローマ帝国」と呼ばれるようになっていた。しかし、ドイツ史家のウィルスンはその著書『神聖ローマ帝国 1495-1806』において、「この段階においてさえ、すべての帝国住民がドイツ語を話していたわけでもなく、また、多くのドイツ人が帝国の境界の外、特に東方<sup>(2)</sup>でも生活していた。その一方で、帝国内の重要なドイツ人諸侯の中には、ヨーロッパの他の場所に領地をもつ者もあつた<sup>(4)</sup>」<sup>(3)</sup>と指摘している。帝国は、このような特徴を保ったまま長期にわたって存続したが、フランスの  が西南ドイツ地域を保護下におき、1806年に  を結成させたことで消滅した。

問 1 空欄 a と b に適切な語句を入れなさい。

問 2 下線部(1)をベルリンの宮廷に招いた君主の名称を記しなさい。

問 3 下線部(2)の一例として、チェコ(ベーメン)地域の住民があげられる。14世紀から17世紀にかけて、彼らが神聖ローマ皇帝やカトリック教会に反発したことにより生じた戦争の名称を2つ記しなさい。

問 4 下線部(3)の地域では、中世末期から西欧諸国への穀物輸出が増加した。それにともない普及した土地制度の名称を記しなさい。また、その中で領主層は何と呼ばれたか記しなさい。

問 5 下線部(4)の諸侯のうち、伝統的に神聖ローマ皇帝を輩出していたハプスブルク家は、16世紀になると帝国外に広大な領土を獲得した。このことに関連して、「太陽の沈まぬ国」と呼ばれた国の名称を記しつつ、これを統治したフェリペ2世の対外関係について、以下の4つの語句をすべて用いて、200字以内で説明しなさい。使用した語句には下線を引くこと。

〔語句〕 無敵艦隊    オスマン帝国    オランダ    ポルトガル

- 4 次の史料は、1898年に康有為が光緒帝に提出した著作の序文である。この史料を読んで、以下の問い(1～3)に答えなさい(史料は一部省略したり、書き改めたところがある)。

### 史料

国の大小、民の衆寡を問わず、政治を整えることができれば国は強くなり、できなければ弱くなると聞き及んでおります。遠い国のことはひとまずおいて、身近なことについて申し上げます。

明は広大な領土をもっていたではありませんか。然るに清朝は東北地方に勃興し、まず自らの軍隊を編成して、ついに北は蒙古四十国を手中にし、東は朝鮮を平定し中国本土に入ってその主となり、数か月にしてあまねく全土を領有しました。<sup>(1)</sup>

近い国では、ロシアは元来は小国でしたが、ピョートル大帝が起ってから発奮して変法し、北半球を制覇するに至りました。<sup>(2)</sup>

日本の領域の如きは、わが四川一省ほどしかなく、人民もわが国の十分の一にすぎません。しかるに猛然と変法し、ついにわが大国の軍隊を撃滅して、わが遼東、台湾を割き、二億両の償金を奪いました。

…日本の変法を考えるに、その初めには非常な困難がありました。…でありながら二十年間に政治制度、法律を整備し、欧米の学問、技術をことごとく採用して、これを国民に消化させ、一年に数十万の軍隊を養い、十数隻の軍艦を作りあげて、わが大国に勝利しました。

…日本とわが国は文字が同じですから、日本の訳書を重訳して書物を編纂するのは、欧米のものを訳するより容易であって、しかも成果は大です。日本とわが国の習俗は同じですから、その政治改革の経過を考察して、彼らが実行したことの得失を教訓とし、その弊害を除去して、その精華を採るようにすれば、瞬時にして欧米の新法と、日本の法のすぐれたところがことごとくわが神州大陸に実現するでしょう。

(『日本変政考』)



問 1 下線部(1)に関連して、清に臣従することになった朝鮮では、主に官僚を輩出した知識人階層の間に、自国を文明の中心と考える「小中華」意識が強まった。この知識人階層の名称を記しなさい。また、朝鮮が、「小中華」意識をもつようになった背景および、その結果起こった儒教受容における変化について、以下の4つの語句をすべて用いて、80字以内で説明しなさい。使用した語句には下線を引くこと。

〔語句〕 夷狄 満洲人 中国文明 儀礼

問 2 下線部(2)の人物の治世において、清と結んだ条約の名称、その条約の内容、および(2)の人物が新たに定めた首都の名称を記しなさい。

問 3 史料が提出された当時、清がおかれていた国際的状況および史料から読み取ることができる康有為の提案について述べた上で、光緒帝の下で康有為が行った改革の顛末<sup>てんまつ</sup>について、その名称を明記しつつ130字以内で説明しなさい。